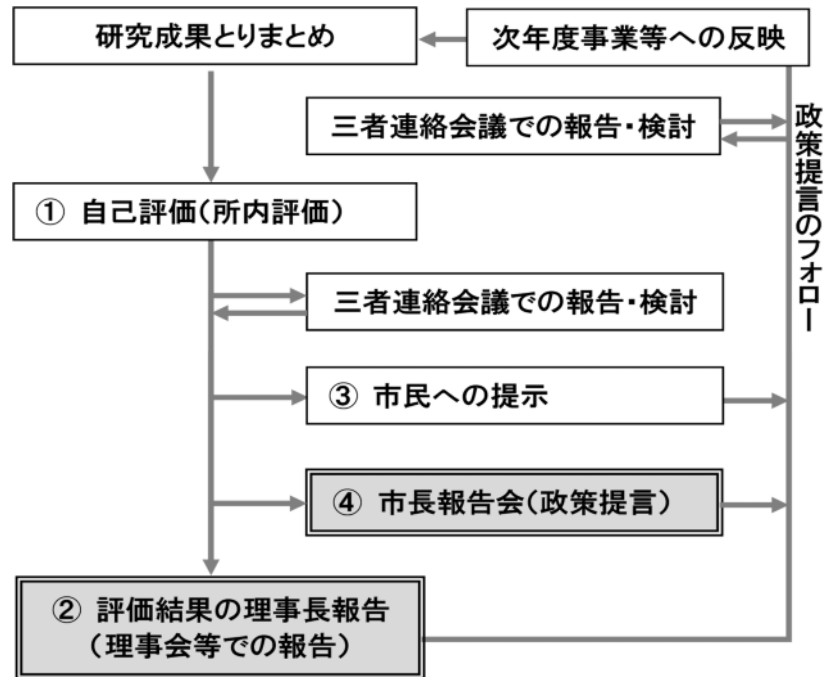


令和4年度研究成果の評価について

1. 中期ビジョンにおける評価の仕組み

【評価のプロセス】



【評価指標】

研究所の役割	評価指標
広義の都市 交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数
	3) 論文賞等の受賞
	4) 競争的研究資金の獲得件数
交通 まちづくり の推進	5) 市への政策提案件数
	6) 豊田市はじめ行政等からの受託研究の受注件数(金額)
	7) 地域に関わる研究テーマの件数
	8) 地域活動への貢献(委員・講師等)
世界への 情報発信と 貢献	9) 国際会議での論文発表件数
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施
	12) 機関紙・年報の定期発行
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催数, イベント出展数
	14) 各種行事記録集の発行:種類
	15) マスコミの露出度:報道・出演回数

評価指標を用いた試行評価の結果

令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて国際会議への参加控えが続いています。また、対面での調整や実施が必要な研究活動に遅れが生じる厳しい状況でしたが、当初計画された各種研究と関連事業を概ね遂行できました。事業の拡大が難しく受託件数の広がり等は従前と異なりますが、令和5年度にスタートする第3次中期ビジョンにおいては、各種研究活動の飛躍を目指して活動していきます。

一年間の成果は次のとおりです。

役割	評価指標	H28-30 平均	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	
① 広義の都市交通の研究	1) 外部学会誌・論文集等で発表した査読付き論文数	17.3	23	12	18	14	↓
	2) 上記を除くその他学会・協会等で発表した論文数	20.7	19	22	14	17	↑
	3) 論文賞等の受賞	0.7	1	3	1	0	↓
	4) 競争的研究資金の獲得件数〔科研費〕 競争的研究資金の獲得件数〔その他〕	1.3 3	2 4	4 1	4 2	4 5	↑
② 交通まちづくりの推進	5) 市（地域）への政策提案件数	9	11	14	14	8	↓
	6) 受託研究の受注件数（件）	18	19	19	12	9	↓
	7) 地域に関わる研究テーマの件数	21.7	26	27	20	15	↓
	8) 地域活動への貢献〔委員・大学等講師〕 〔講演〕	39.3 26.7	36 34	36 10	39 14	32 7	↓ ↓
③ 世界への情報発信と貢献	9) 国際会議での論文発表件数	14	16	4	5	2	↓
	10) 国際セミナー・シンポジウムの開催	0.3	0	0	0	0	
	11) 国際的な調査プロジェクトの実施	0.3	1	1	2	2	
	12) 機関紙・年報の定期発行	5	5	5	5	5	
	13) シンポジウム・報告発表会・講習会・セミナー等の開催回数、イベント出展	14	16	10	14	14	
	14) 各種行事記録集の発行：種類	1.7	3	2	3	2	↓
	15) マスコミの露出度：報道・出演回数	9	5	2	2	6	↑

総括1：査読付き論文数が前年度比で減少したものの、論文の総件数は概ね前年度と同水準に維持できました。また、競争的研究資金の獲得に力を入れた結果、獲得件数の増加に繋がられました。

総括2：受託研究や地域に関わる研究テーマが継続的に減少していることから政策提案は減少となりましたが、過去の政策提案の「ジコゼロ大作戦」が実を結び実践段階に入ってきました。次年度以降は、第3次中期ビジョンに基づき研究成果を活用した社会貢献への取組を強化することで研究所の成長を目指していきます。

総括3：マスコミの露出度が、新型コロナウイルス感染症の前の水準に戻ったことが研究所のプレゼンスの向上に繋がっており、研究員の大きな励みになりました。各指標における件数の減少は研究員の欠員が原因となっていることから、研究所の実績と魅力に関わる情報発信を強化し人材の獲得を目指していきます。